

読みたい聴きたい

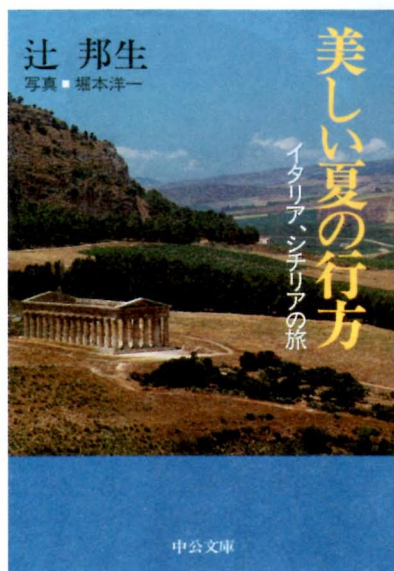
福岡市内の書店『ブックスキューブリック』のオーナー・大井実さんに、毎回テーマに沿った本と音楽を紹介していただきます。ジャンルを超えて楽しめる作品にぜひ、触れてみてください。

撮影/スタジオパッション

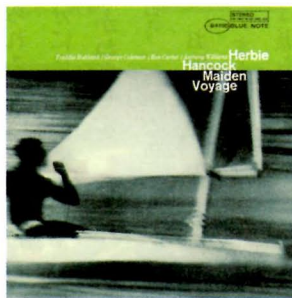
ココロに、 ウツクシク

(旅への気持ちを高める作品)

まるで、街の姿をスケッチするようになり、美しい言葉たちに感動するばかりです。



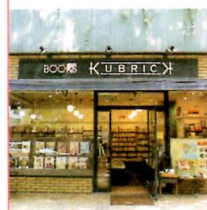
『美しい夏の行方 イタリア、シチリアの旅』
辻邦生
中公文庫
760円(税込)



『処女航海』
ハービー・ハンコック
EMIミュージック・ジャパン
2,100円(税込)
TOCJ-6405

■ 大井実さん

話題の一冊から普遍的な作品までを揃える福岡市内の書店『ブックスキューブリック』のオーナー。東区箱崎にある箱崎店では、オリジナルブレンドコーヒーやスイーツ、ベーグルなどが楽しめます。ブックスキューブリック
福岡市中央区赤坂2-1-12 ネオグランデ赤坂1階
☎092-711-1180 <http://www.bookskubrick.jp>



子どもの頃、友達とともに元気に外に飛び出した夏休みの思い出がDNAに染み込んでいるからか、この季節になると、大人になった今でもふらりとどこかへ出掛けたくありません。今回ご紹介するのは、忙しい日々の中でも非日常の旅へ誘ってくれるような素晴らしい一冊です。

作者は、文学者であり小説家の辻邦生。彼がかつて女性誌に連載していた紀行作品をまとめた『美しい夏の行方 イタリア、シチリアの旅』は、前半にイタリア中部、後半にシチリアの旅の様子子が繰り広げられています。彼の紡ぎ出す言葉は、文学者でありながら堅苦しい文章ではなく、とても情緒的。それはまるで、言葉で絵を描く、といった印象で、それぞれの街の姿が頭の中で想像できるだけでなく、人々の様子や空気感までもがありありと伝わってくるのです。ひよろひよろと背の高い独特な形をしたローマの松の木や、巨大なモニュメントの影に入った時に感じるヒンヤリとした様子を描いた文章には、思わず「我が意を得たり!」と唸ってしまいま

した。世界一美しい広場と云われている、カンポ広場にしてみてもそうです。赤煉瓦の家が密集し、まるで迷路のようになった街をひたすら歩き続けると、視界に突然、広大な広場が広がる。小道を歩いている時の閉塞的な空気が一変して、光が燦々と降り注ぐ広場へ辿り着いた時のあの開放感は、「行った人しか分からない」と言いたいところですが、彼の文章を読めばその情景がリアルに伝わってきます。

この夏、旅への高揚感を高めてくれる一冊としてぜひどうぞ。

オススメの音楽は、ジャズピアニストであるハービー・ハンコックのアルバム『処女航海』というタイトルが示す通り、壮大な海をテーマにしており、初めて航海に出る時の緊張感や水の上を船で進む疾走感、そして海の優しい表情が繊細なピアノタッチで表現されています。そんな耳触りのいい一枚は、ジャズの王道というよりも、斬新なコード進行や自由度の高いメロディーを取り入れたモードジャズ。初めてジャズを聴く人にも聴きやすい作品ではないでしょうか。